

#### 4.6.2 人と自然との触れ合いの活動の場の保全への取り組み

##### 1) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響

主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響の検討は、工事中とダム供用後について、事業による触れ合いの活動の場及びその場を取り巻く自然資源の「改変の程度」、「アクセス性の変化」及び近傍の風景、騒音、水質の変化を要因とする「快適性の変化」の3つの観点から実施した。

事業による改変の程度及びアクセス性の変化は、主要な人と自然との触れ合いの活動の場と事業計画との重ね合わせにより検討を行った。重ね合わせの結果は、図 4.6.2-1 に示すとおりである。

事業による快適性の変化については、活動の特性を踏まえ、近傍の風景、騒音、水質の変化による影響の検討を行った。

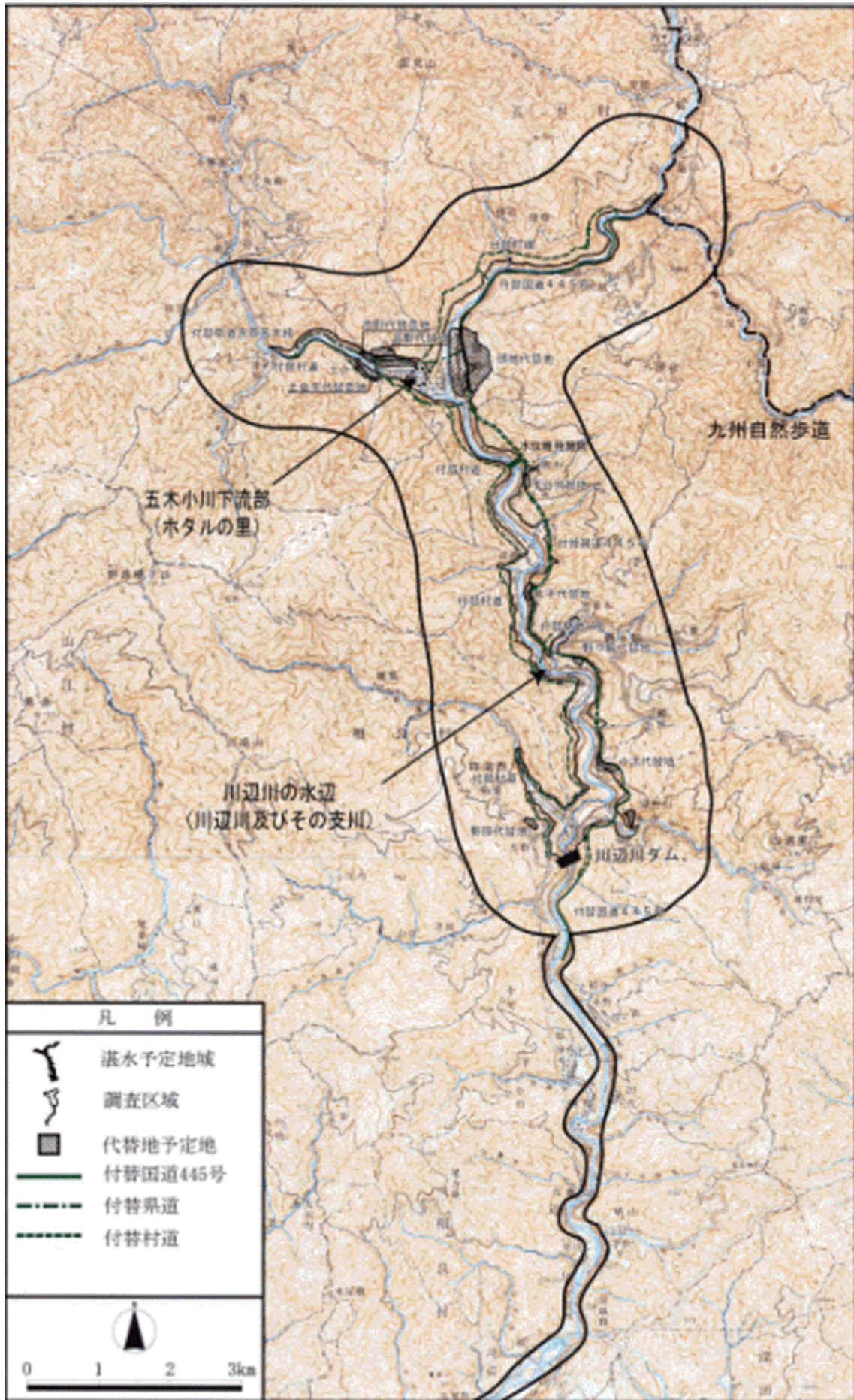


図 4. 6. 2-1(1) 事業計画との重ね合わせの結果 (上流域)



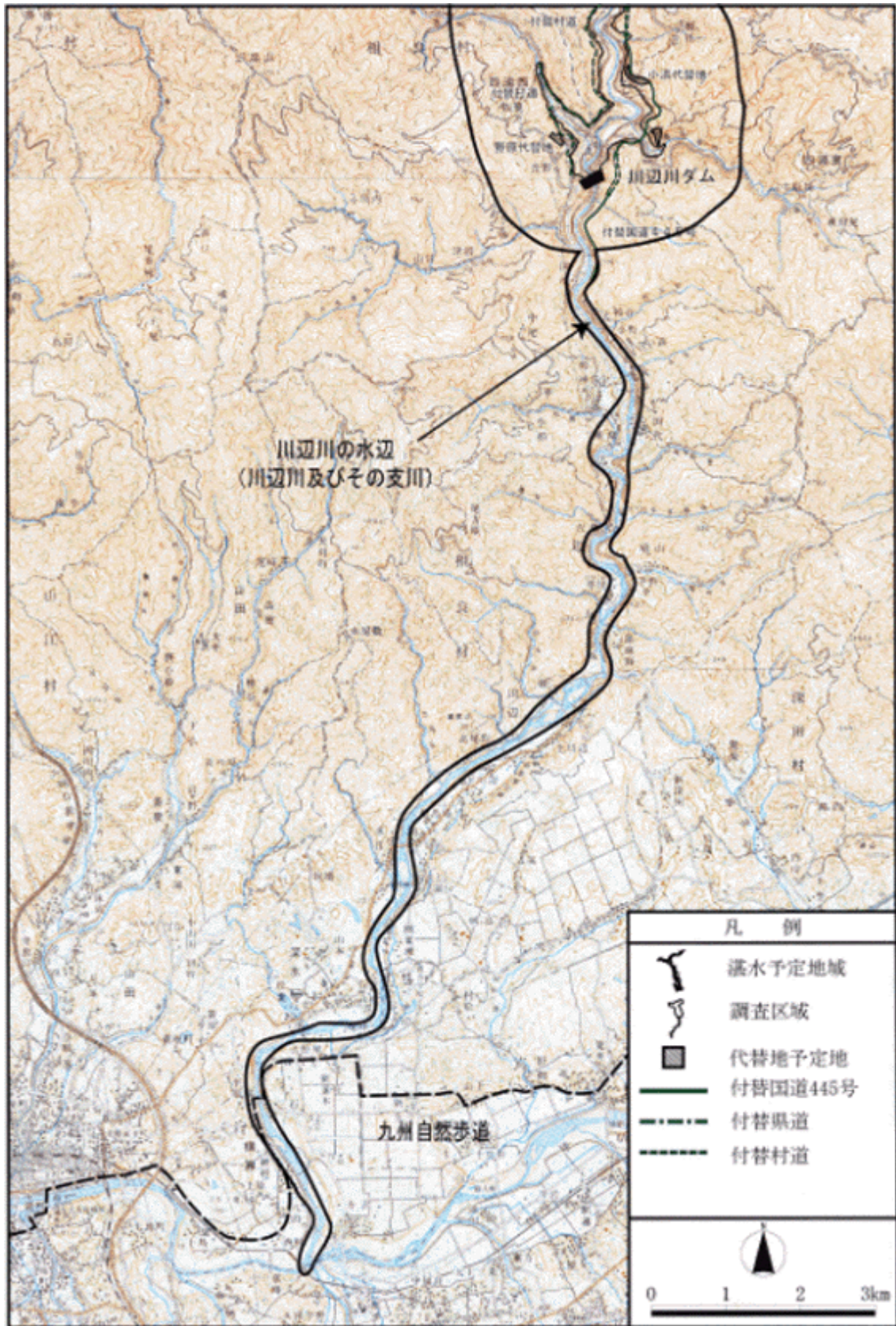


図 4. 6. 2-1(2) 事業計画との重ね合わせの結果 (下流域)

### (1)川辺川の水辺への影響

改変の程度については、工事中は工事による改変及び工事区域内への一般の人の立ち入り制限を行うことによる活動の場の減少が考えられる。ダム供用後は、ダムの堤体及び貯水池の存在する区間については、従来の釣り、デイキャンプなどの活動の場は消失するが、貯水池より上流及びダム堤体より下流の区間における活動の場は維持される。

アクセス性の変化については、工事中は工事用車両の走行に伴い、水辺へのアクセス性に影響が及ぶ可能性がある。ダム供用後は、付替国道 445 号が整備され一般国道 445 号と比較して道路幅員も拡幅されることから、円滑にアクセスできると考えられる。

快適性の変化については、工事中は、ダムの堤体、骨材製造設備などの設置に伴う近傍の風景の変化や建設機械の稼働に伴う騒音による影響が考えられる。ダム供用後は、ダムの堤体及び貯水池の存在による近傍の風景の変化による影響が考えられる。水質については工事中、ダム供用後ともに、適切な対策が講じられることから活動の場への大きな影響は生じないと考えられる。なお、工事中は流域の降雨の状況などによっては、河川の流量が増加しない場合においても、工事区域から降雨による濁水が流出する。この場合には、河川の流速が小さいため、濁質は、流下するにつれて河床に沈降すると想定されるが、洪水によりフラッシュされることから、一時的なものと考えられ、活動の場への大きな影響は生じないと考えられる。

また、ダム供用後のダム下流においては、濁水時の流量が増加することから快適性が改善されると考えられる。

### (2)五木小川下流部(ホタルの里)への影響

ダム供用後は貯水池の存在により、ホタル観賞の場は消失する。

### (3)九州自然歩道(2ルート)への影響

九州自然歩道は、工事中、ダム供用後ともに事業による改変を受けないことから、活動の場は維持される。

アクセス性の変化については、工事中は工事用車両の走行に伴い、九州自然歩道へのアクセス性に影響が及ぶ可能性がある。ダム供用後は、付替国道 445 号が整備され一般国道 445 号と比較して道路幅員も拡幅されることから、円滑にアクセスできると考えられる。

快適性の変化については、九州自然歩道と事業区域は距離が離れていることから、近傍の風景の変化や騒音による影響は生じないと考えられる。

## 2) その他の取り組みについて

ダム供用後は、ダムの堤体及び貯水池の存在する区間については、従来の釣り、デイキャンプなどの活動の場は消失するが、貯水池が新たに出現するとともに、水位維持施設の上流側には夏場にも安定した水面が確保されることから、水面利用等による人と自然との触れ合いの活動の場の出現が期待される。また、貯水池周辺環境整備計画において水遊びやキャンプなどが行える新たな人と自然との触れ合いの活動の場の創出の検討を行っていくこととしている。